

CityLife
NEWS
PERSONSPECIAL
INTERVIEW

音楽で未来を変える セブ島の子どもたちを救う セブンスピリット

フィリピンの子どもたちに音楽を通じて生きる力を身につけてほしい——。そんな思いで始めた活動が今年2月で8年目を迎えた。セブ島を拠点とするNPO法人「セブンスピリット」で事務局長を務め、子どもたちの変化を見守ってきた永田正彰さんに話をうかがった。

フィリピンのセブ島といえば、リゾートや語学学校といったイメージを持つかもしれない。しかし華やかな雰囲気一方で、まだまだ貧困から抜け出せずにいる人たちも多い。そこで暮らす子どもについて「フィリピンの公教育は高校まで無料ですが、お金がなくて制服や文房具がそろえられなかったり、親御さんも小学校教育程度しかなく『学校に行っても仕方がない』と考えて、途中で辞めさせてしまうケースが多いんです」と永田さんは話す。教育を受けない子どもは、善悪の判断がつかず犯罪や薬物に手を染めてしまうことも。セブンスピリットは、そんな子どもたちのために、音楽を通じて社会性や協調性、人を思いやる心などを育み、将来を切り開く力を身につける場を提供している。

セブンスピリットでは、毎日のように放課後に音楽教室を開くほか、週2回の出張音楽教室、週末はスポーツ教室を実施。主な活動である音楽教室では、リコーダーや鍵盤ハーモニカで音楽の基礎を習得した後、オーケストラの楽器へと進む。希望者は学校へ行くことを条件に無償で受け入れ、現在は7~19歳まで約120人が在籍する。

生徒はスラム出身から中流階級の子どものまで様々。最初は練習を邪魔するなど争いごとが絶えなかったという。しかし次第に音楽の楽しさに目覚め、みんなで1つの曲を作り上げるという目標ができたことで協

調性も生まれてきた。

スラム以外の世界を知らずに生きてきた子どもが、視野を広げる機会も与えている。「『お母さんが死んじゃった』とウソをついてお店から無料でパンをもらったり物乞いをしていたのが、音楽に出会って生活態度を改めたという子もいます。また、いろいろな人と関わったりコンサートで各地を訪れ、『こんな職業があるんだ』『こんな美しい場所があるんだ』と知り、それをきっかけに警察官や先生を目指したり、もっと違う国に行きたいという夢を持った子もいます」。ほかにも、フィリピンの大学ではオーケストラに所属すると学費が無料になる制度があり、セブンスピリットからも毎年10人前後が制度を利用して進学している。

音大を卒業後、学校や音楽教室などで指導をしてきた永田さんは、今から6年前、セブンスピリット主催のイベントに参加。現地でスリに遭ってしまった際、助けてくれた地元住民の優しさに触れ、海外の仕事に興味を持っていたこともあり活動に加わることを決めた。「どんどん変化していく子どもたちの姿を見るとやりがいを感じます」と永田さん。最初は自ら子どもたちに楽器を教えていたが、最近は現地スタッフでほとんど運営を回せるようになった。今年に入ってからは、個人的に指揮の勉強のためドイツへ行ったり、アフリカでの音楽を通じた社会貢献活動の誘いを受けたりと、活動の幅を広げつつある。「行く先々でセブンスピリットの話をしているので、チャンスがあればヨーロッパやアフリカにも子どもたちを連れて行きたい。あとはフィリピン国内でもっと音楽を広げていけたら。例えば、イスラム紛争があったミンダナオ島などでいい作用を起こしたいですね」。音楽の持つ可能性を信じて、将来を見据える。

セブンスピリットでは今年の10月30日~

楽器を奏でている間は、立ち込めるドブの臭いやストレスから解放され、笑顔がこぼれる。



11月6日、第2回目となる日本での演奏ツアーを計画。生徒50人が来日し、東京(11月

音楽の輪が広がり、年々坂者が増えている。



永田 正彰(ながた まさあき)さん / 吹田市出身。2008年大阪音楽大学卒業。吹田市立千里丘中学校吹奏楽部の指揮者・技術指導員としても勤務した。大阪音楽大学音楽博物館の職員をしていた経歴から音楽学、音楽史、世界の民族音楽などにも明るい。

2日)と大阪(11月4日)でコンサートを行う。開催のための必要経費600万円を目標に、7月1日からクラウドファンディングを実施中。8月31日まで。

1歳児クラスへの保育園入園予約制度が 箕面市でスタート

箕面市は、保育園への入園内定をいち早くお知らせする入園予約制度をスタートさせる。現行の制度では入園可否の通知が1月末となり、実際に入園する4月まで約2か月と期間が短い。この制度は先に入園地域のみを決定させ、早期に内定を通知できる全国的にも珍しい取り組みだ。

まず7月初旬~11月中旬に申込みを行い、市内の4つの地域(西部・中部・東部・北部)から希望の地域を選択し、その地域の全保育園に希望の順位をつけていく。早い場合9月中旬、遅くとも12月中に入園地域の決定が通知され、内定者は4月からの入園が確約される。

箕面市は「保育園への不安が払拭され、以降のスケジュールが立てやすくなるため、安心して子育てができる」としている。

予約方法など、詳しくは箕面市ホームページで確認を。

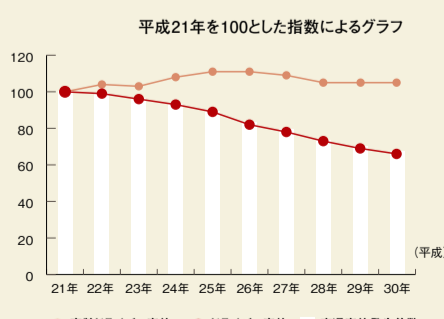


永田さんのレッスン風景

高齢者による交通事故・被害の防止

協力:大阪府警察

近年、交通事故発生件数・ドライバー事故件数がともに減少しているなか、65歳以上の高齢ドライバー事故(65歳以上の運転者が原付以上運転中で第1当事者となった事故)件数は、平成21年と平成30年の10年で300件ほど増加している。また、免許を保持する高齢者の割合も増えており、今後も高齢ドライバー事故件数が増加すると見込まれる。



【高齢者が交通事故に遭わないために】

- 夜間はドライバーから歩行者が見えにくいので、大変危険。少しでも早く、自分の存在をドライバーに知らせることが大切となる。車やバイクのライトが当たるとその光を跳ね返し、ドライバーに自分の存在を知らせる「反射材」を靴の側面等に貼り、活用しよう。
- 高齢者の自転車乗用中の死者の約8割は負傷部位が頭部となっている。自転車に乗る際は、事故の衝撃から頭部を守るためヘルメット着用を心がけよう。

【高齢者が交通事故を起こさないために】

- 加齢に伴い身体機能は低下する。速度を控え、安全運転・安全確認をしっかりと行おう。
- 運転に不安を感じてきたら、運転免許証の自主返納を検討しよう。運転免許証の返納は、門真・光明池運転免許試験場、大阪府内の各警察署(大阪水上署を除く)で行うことができる。

詳しくはこちら

